

特定非営利活動法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク解散の経緯

2011年3月11日の東日本大震災と津波被害、そして東京電力福島第一原発事故など、福島は未曾有の大災害に見舞われました。被害者となった福島の人たちと、福島原発の電力を消費してきた首都圏の市民と共に課題を解決していくために、情報を共有して、問題点を明らかにする必要性を抱いた160人の心ある市民たちの賛同を得て、その年の10月に「福島県はじめ全ての人たちに対して、文化を通して人と人を繋げる事業を行い、震災後の日本社会の再構築に寄与することを目的とする」ことを定款に掲げて「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」を設立しました。

この目的を実現するために、特定非営利活動法人を取得し、講演会や学習会、交流会で福島の現状を発信し、子どもの保養を実施し、またツアーで現地を訪問してネットワークを広げるなど共感を広げる活動を行ってきました。また、文化を通して福島の地域づくり、影絵や民謡、アフリカダンスのワークショップなどで子どもたちの心のリフレッシュにも取り組み、子どもたちの笑顔が活動の励みにもなりました。

しかし、2020年のコロナウイルスの感染拡大により、人と人の接触を避ける風潮もあって、福島の人たちとの距離も遠くなり、必然的に当NPOの事業にも影響が出てきました。落ち着いたといわれている今でも保育園や幼稚園の訪問は厳しく、事業の柱であった文化による出前公演事業は諦めることになり、ほかの事業も見直すことになりました。

加えて、理事たちも高齢化、病気、生活環境の変化など、公私にわたる諸事情の影響もあって、当初ほど活動のエネルギーを維持することが難しくなりました。汚染水の海洋放出の強行などに見られるように、原発事故は収拾したとはとうてい言えず、福島の復興についても未ださまざまな課題が残るとはいえ、会としては12年の活動にいったんの区切りをつけ、解散の道を選ぶこととなりました。永年にわたって会費やご寄付を頂き、またNPOの活動を共に担っていただいたみなさまには、活動を継続できなくなったことをお詫びすると共に、これまでのご支援に深く感謝申し上げます。

次ぎの若い世代に活動を繋げられなかったことは私たちの最大の反省点ですが、12年の活動を通して出会った人々のネットワークこそ、私たちの貴重な財産です。今後、理事および会員のみなさまは、この資産を活かしながら、NPOという組織形態にとらわれず、それぞれの立場から可能な範囲で、福島の課題に取り組んでいかれるものと思います。

会員のみなさまにおかれてましては、会の現状および解散に至る経緯をぜひともご理解いただければ幸いです。

2023年11月10日

特定非営利活動法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク 理事一同